

新しいずみ病院

住所	和泉市唐国町 4-15-48	電話	0725-53-1555
病床数	444 床	病棟数	5 病棟

人権センターニュース No. 90 より

オンブズマン活動報告

平成 20 年 6 月 24 日訪問

病院全体

前回、検討事項にあげられていた隔離室のトイレは通路側に板が設置され、通路から丸見えという状況は改善されていた。隔離室と詰所との間の扉は開いていて、「閉めないようにしてください」との掲示。給湯器の設置場所も変わった。職員によると「昨年グループが変わり、動物介在活動(犬とふれあう)はなくなった」「病棟の窓は外側がガラスで、内側は強化プラスチックになっているので、鉄格子はないが、一部に鳩よけの網を設置した」とのこと。

- (1)人権擁護委員会：ない。投書箱は 2 回/月、回収。病院全体の会議で検討し、回答を掲示。
- (2)行動制限最小化委員会：設置している。
- (3)担当制：病室ごとの担当看護師、患者ごとに担当 PSW がいる。
- (4)診察：診察室はなく、詰所内で行われる。
- (5)服薬：職員が病室をまわって手渡し。
- (6)外出：ノートに名前や行き先を書く。2 病棟・3 病棟 A 棟では単独外出する患者はいない。閉鎖処遇患者は週 2 回、売店への買物がある。
- (7)金銭管理：金銭管理費 50 円/日。鍵付きロッカー(50 円/日)で自己管理ができる。
- (8)食事の選択メニュー：なし。
- (9)入浴：週 2 回。
- (10)面会：各病棟に面会室がある。
- (11)携帯電話：病棟内で使用できる。
- (12)院内売店：現金かレシートに病棟と氏名を書き、月々の精算時に預かり金から引落す。
- (13)医療福祉相談室：PSW6 名。退院促進事業による退院者は 1 名、現在 5 名程が利用中。

2 病棟 (閉鎖・女性) ・ 3 病棟 (閉鎖・男性)

病院側の説明

詰所を中心に A 棟と B 棟に分かれ、職員は日によって担当する棟を割当てられる。A 棟は認知症病棟で 60～80 歳代の患者が多い。問題行動が多く施設入所の受入れ先を探すことが難しい為、入院が長期化し高齢化している。身体合併症の患者も多い。B 棟は長期入院の患者も多く、全体的に高齢化しているが、10～30 歳代の患者が短期間で退院することもある。金銭自己管理は 2 病棟 B 棟に 10 名程。

病棟の様子

2 病棟は A 棟と B 棟は繋がっているが、3 病棟は A 棟と B 棟の間が扉で仕切られていた。A 棟では同じ柄のリースの寝巻き(浴衣式)を着ている患者が多かった。

【隔離室】

詰所奥に有。通路と隔離室の間は鉄格子で仕切られていて、鉄格子横に和式トイレが有。使用されている部屋には床にマットレスと布団が敷いてあった。通路には床頭台、消臭剤、時計が有。室内で拘束をされている患者の横にはラジカセが置かれ、音楽が流れていた。

【病室】

5～6人部屋。ベッド周りのカーテンは開けている人や閉めている人など様々であった。

【電話】

2病棟、3病棟 A棟は詰所の扉を出た横、3病棟 B棟は廊下を隔てて詰所から見える所に有。

【デイルーム】

各棟に有。数人がテレビを見ていて、喫煙場所にもなっていた。分煙はなされていない。

【その他】

3病棟 A棟では病棟の見取図が掲示されていたが、実際と左右が逆になっているようだった。詰所から病棟の方向を見る時には患者や面会者にはわかりづらいのではないだろうか。

5病棟（開放・男女）

基本的には全員が任意入院。年齢層は20歳～80歳代と幅広い。女性の部屋が多く、アルコール依存症の治療で入院している女性患者も含まれる。アルコール依存症で1クール2ヶ月の治療入院をしている患者がいる一方、30年以上入院の患者もいる。この病棟の平均在院日数は600日ぐらい。比較的PSWの出入りが多い病棟。金銭や薬の自己管理の患者はいる。週渡しから日渡しまで人によって違う。

AAのポスターや作品等掲示。ラジオ体操を患者11名と職員3名が廊下でしていた。女性の病室で患者同士が雑談していたり、病院玄関の喫煙コーナーや病院の前の芝生に出て過ごす患者もいる。OTには個人OT、軽スポーツ、調理、パソコン等のプログラムがある。

【トイレ】

男女共用。狭いスペースの中で小便器2つの背後に個室3つ有。洗濯機が2台有。

患者の声

2病棟

「希望すればどのような薬を飲んでいるかを書面で教えてもらえる。安心する(複数の患者の声)」
「私は薬の内容を知らない。今度聞いてみる」
「お金の残高は聞かないと教えてくれない」
「病棟に持ってくるお茶の入れ物がバケツ。きれいなバケツだと思うが飲み物をバケツに入れてくるのは気持ちよくない」
「売店は週2回行けるが、値段が高いので外に買いに行く」
「お金のことは病院に任せている」

3病棟

「用事のある時は、詰所に行くか近くを職員が通りかかった時に呼び止めると対応してくれる」
「入院して10年。1ヶ月位前から退院先の部屋を探している」
「食事はおいしい」
「職員はいたずら等すると厳しいが優しい人もいる」
「タバコは言われた時にすぐに取りに行かないとももらえない」
「買物は週2回。多い時は患者10人位と付添の職員5～6人とで行く。ゆっくり買物はできない」
「入った時は6ヶ月で退院と言われたが、延びて3年以上たつ」
「家族と連絡をとりたい。どうしたらいい？」

5病棟

「買物は病院に預けている現金を出して、バスやタクシーで駅前のイズミヤまで行く」

検討事項

【トイレ個室の扉の高さ】2・3病棟

「トイレ個室の扉の高さ(が低いこと)について、問題意識は持っているが改善するにも優先順位があり、まだできていない」とのことだった。5病棟では扉の上はカーテンで塞がれていた。2病棟・3病棟もできることからの配慮や工夫をお願いしたい。(病院:2病棟・3病棟のトイレの扉の高さ(低さ)については、5病棟と同じ様に扉上にカーテン等の工夫を検討します。)

【売店の値段】

患者から「売店の値段が高い」「ティッシュが1箱304円は高い」等の声があった。閉鎖処遇で外に買いに行くことができない患者は売店で買わざるを得ないので、売店の値段設定について検討をお願いしたい。(病院：ティッシュペーパー1箱は105円(税込)で販売しており、ここにある「304円」というのは昔ながらの落とし紙(高さ40～50cm)のことではないか。売店は外部業者に委託しており、値段については以前から交渉している。場合によっては他の業者への選定も考えている。)

【職員の言葉遣い】

職員がとても丁寧な口調で患者に話しかけたり、処置などの声かけをしている姿もあれば、「ほら、おいで」「おやつやで！」など、親が子どもに言うような口調で声をかけている姿もみられた。患者からも「廊下で寝ている人がいて、職員が注意する。その言い方が丁寧な人もいるが、きつい言い方の人がいて怖い」との声があった。どの職員も患者の尊厳を守る言葉遣いや接遇ができるよう、病院全体の問題として検討をお願いしたい。(病院：接遇にして、病院全体の取り組みにしていかなければならないと考えています。教育委員会主催等の勉強会を年数回行い、一般職員にも接遇・言葉づかいの教育をしているところです。)

【個別の状況にあわせた金銭管理を】3病棟

3病棟には鍵付きロッカーがなく、金銭を自己管理する患者はいなかった。他病棟と同じように鍵付きロッカーを設置し、1人でも多くの患者が金銭を自己管理できるよう、個別に細やかな対応をお願いしたい。(病院：設置場や盗難等の問題もあり、ロッカーの設置には問題があり対応できない。しかし、個々に応じ必要があればおこずかいの大金もしており自己管理できていると思われれます。)

【トイレと洗面所を隔てる仕切り】2・3病棟

詰所前に廊下があり、その廊下を挟んで向かい側に洗面所があり、その奥にトイレがあった。廊下と洗面所の間には壁などの仕切りはなく、洗面所とトイレの間にはカーテンがあった。ただ、患者の話によるとこのカーテンは開いている日もあるようだった。カーテンが開いていた場合には、詰所や廊下から、いつ誰がトイレに入ったのかわかる状態である。前回は検討事項でお願いしていたが、療養空間と排泄空間を分けること、患者のプライバシーを保障する観点から、カーテンを常時使用することをお願いしたい。(病院：患者の多種多様な病状により、仕切り用カーテンが開けっ放しになっていたのかもしれない。病棟職員が気がつけば仕切り用カーテンを閉めるよう教育しています。今後も再教育の徹底をしていきたいと考えています。)

【退院支援の情報を】

退院に関して患者から、「退院の相談は医師やケースワーカーとしている」という声がある一方で「退院できるのだろうか。ケースワーカーがいることは知らなかった」との声もあった。退院に向けた支援があるという情報を伝えることをお願いしたい。(病院：現状として患者全員に担当ケースワーカーがついています。病状にあわせ、退院に向けた支援の情報提供(患者・家族との面談・資料提供退院支援にかかる手続き)を行っております。)

【電話の設置場所】2病棟・3病棟A棟

電話が詰所出入口の横にあり、囲い等はなかった。患者から「電話が使いにくい」との声があった。他人に聞かれたくないプライベートなことなどを周囲に気兼ねすることなく電話できる環境の検討をお願いしたい。(病院：公衆電話のプライバシー保護については、スペース的に困難な状況ですが、希望があれば面会室等での使用は、可能で患者にもお伝えしています。また大がかりな改修時には、電話スペースも考慮したいと思えます。)

【診察時のプライバシー】

詰所で診察を行うことについて、病院によると「課題であると感じているが、どこに診察場所をつくればいいのかなど悩んでいる」とのことだった。カーテンや衝立等を使用するなどの実施をお願いしたい。(病院：詰所内診察に関し、病棟内の机等の配置換え等により、より診察環境の整備に努めています。)

【隔離室の鉄格子】

前回の検討事項にあげた隔離室のトイレは通路側に板が設置され、通路から丸見えという状況は改善されていた。ただ、天井までの高さの鉄格子というのは急性症状のしんどい時期を隔離室の中で過ごす患者にとって安心し、落ち着ける環境とは言い難いのではないだろうか。鉄格子の撤去の検討をお願いしたい。(病院：予算的・場所的な制限を考慮しながら、検討していきたいと考えます。)

【分煙】2病棟・3病棟

2病棟・3病棟のデイルームの分煙の検討をお願いしたい。(病院：禁煙には積極的に取り組まなければならないと考え、設備的な投資も今後の課題としていきたい。)

【入浴の回数】

衛生面においても、生活上の楽しみという面でも、入浴が週に2回は少ないのではないだろうか。増やす方向で検討をお願いしたい。(病院：今後増やして行きたいと考え、入浴時間の変更を検討中であります。)

【訪問時に病院と意見交換をしたこと】

- ・5病棟の男女共用のトイレについて(病院：現状の建物構造ではやむを得ず、患者は玄関にある男女別のトイレも使用している)
- ・トイレ個室にトイレットペーパーがない事について(病院：建物自体が古く構造上とても詰りやすいので現段階での設置は難しい)
- ・2病棟では病室のポータブルトイレを複数の患者が使用している場面(患者がポータブルトイレを使っていたところに、もう1人の患者が来たので、介助職員が「今、使っているから待ちましょうね」と後からきた患者に話しかけていた)があったことについて(病院：承知していないが、事実であれば改善する)
- ・トイレの臭い、浴室は入浴用の椅子、タイル、シャワーやカランやその周りにはコケや湯垢がついていたり、垢がたまって黒くなっている部分もあったこと、患者の声等から、掃除が少し不十分と思われる部分があったことについて(病院：病室内は〔病院職員の〕ヘルパー、その他の病棟内は業者に委託している為、グレイゾーンがあるのかもしれない。[そのような部分がなくなるよう]見直す)

H20 大阪府精神保健福祉関係資料より

305名の入院者のうち統合失調症群が119名(39%)、精神作用物質による精神及び行動障害が77名(25%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が63名(21%)。入院形態は任意入院284名(93%)、医療保護入院21名(7%)。在院期間は1年未満が135名(44%)、1年以上5年未満が107名(35%)、5年以上10年未満が23名(8%)、10年以上20年未満が23名(8%)、20年以上が18名(6%)。(H20.6.30時点)